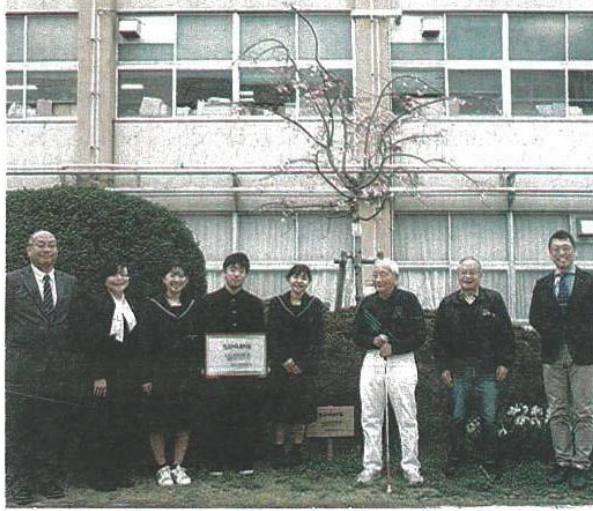


令和3年 4月 2日(金曜日)掲載

この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

岡崎市の岡崎商業高校を一九六四(昭和三十九)年に卒業した同窓生らが三月二十八日、母校に五年前に植樹したシダレザクラの花見会を開いた。茨城県かすみがうら市で東日本大震災を乗り越えたこの木を移植した同窓生の一人、村瀬典世さん(七五)＝豊明市前



花を咲かせたシダレザクラの下に集まった三九会メンバーや生徒会役員ら＝岡崎市栄町3の岡崎商業高で(村瀬さん提供)

母校に植樹 シダレザクラ観賞 岡崎商高同窓生

後町Ⅱは「桜に込めた思いと由来を在校生が継いでくれて感謝だ。全盲のため私は花を直接見られないが、心の中ではいつも満開」と喜んでいる。

シダレザクラは、村瀬さんら同窓生でつくる「三九会」メンバーが古希を迎えた記念に二〇一六年二月、同校中庭に一本を移植。その年の春から花をつけている。移植当時は約三呎だった樹高も、現在では四呎超に成長した。

移植以来恒例となった花見会には今年、メンバーや生徒会役員、加藤千景校長ら計八人が参加。書家に依頼してこのシダレザクラの由来を毛筆でしたためてもらった立て札(縦二十二センチ、横三十五センチ)を設置した。生徒会長の浜田梨良さん(三年)は「この桜の由来と震災の記憶を後輩に伝えていきたい」と約束した。

シダレザクラは現在、散り始め。校内にあるため市民には公開されていない。